北海道情報検索研究会—3ヵ年の歩みと活動—

Hokkaido Information Retrieval Study Group —Development and Activity during the Three Years—

永 岡 茂*
札幌医科大学附属図書館

I. は じ め に

北海道地区の大学図書館が、オンライン検索を導入したのは、札幌で JOIS 公衆回線の開始された昭和 55 年 2 月以後であり、その半年後の昭和 55 年 9 月に、北海道情報検索研究会は、第 1 回例会を行い、現在まで 34 回の例会と 2 回のセミナーを開いている。

当研究会は、JOIS—I から JOIS—II, DIALOG の導入とオンライン検索を中心に活動を行ってきたが、他方では、オンライン検索と図書館、図書館を取り巻く新たな動きにも関心を払ってきた。

過去 3 年間の研究会の歩みと活動を振り返り、紹介としたい。

II. 発足の経過

昭和 55 年 2 月から 8 月までに、北大医学部、旭川医大、東日本学園大、札幌医大の各図書館で、JOIS によるオンライン検索が開始されていた。各館の担当者は、まだオンライン検索に関する知識・情報とも十分ではなく、多くの問題点、疑問点を持ちながら、検索を行っていたと思われる。

そこで、JOIS オンライン検索について、問題点、疑問点を討議し、情報を得るための研究会として、当研究会が発足した。この点について、第 1 回例会議事録には、「2 月発足の JOIS 担当者会議（日本医学図書館協会北海道支部）とは別に、この会をもつ。当面は、問題点、疑問点をもちより、検討したい。将来的には、マニュアル作成も考えている。」と述べられている。

研究会の運営としては、例会を毎月第 4 土曜の午後開くことを原則とし、例会の議事録を各館持ち回りで

作成することが決められただけであった。会場は、主に札幌医大図書館で行われ、当日集まった参加者から提出された問題点、疑問点が討議され、また発表が行われた。

研究会の名称は、当初「JOIS 研究会」、「端末研究会」、単に「研究会」と個々に呼ばれていたが、昭和 57 年、北海道地区大学図書館員研究集会で発表を行ったのを機に、「北海道情報検索研究会」とした。これは、オンライン検索に限らず、図書館その他の広い分野を含めたいと考えたことによる。

以下、研究会の活動について、具体的に述べてみたい。

III. 例会について

これまで 34 回の例会が行われており、その内容は、問題点の討議、研究発表、研修会の報告、講演会等である。以下、各年度ごとに紹介する。

1. 昭和 55 年（第 1 回～第 4 回）

研究会発足当初であり、各館の利用状況、JOIS の利用、図書館でのオンライン検索の記録、PR など、日常業務の面から情報交換、討議がされた。

研究発表としては、次のものがある。

事例研究—予備検索、事後検索、TOXILINE I, II,
(旭川医大 山口)

「MeSH について」(旭川医大 小川)

報告として、次のものが行われた。

MEDLARS 専門講習会—11 月、札幌(旭川医大 小川)

日本端末研究会—11 月、東京(東日本大 大矢)

DIALOG コマンドの解説、ICAS、等について。

2. 昭和 56 年（第 5 回～第 16 回）

* Shigeru NAGAOKA: Sapporo Medical College Library, Nishi 17-chome, Minami 1-Jo, Chuo-ku, Sapporo City, 060 Japan.
(昭和 58 年 11 月 21 日 受理)

JOISによるMEDLINE検索が、研究会の中心テーマであり、それがこの年には、JOIS-IからJOIS-IIへと変わり、さらにDIALOGが実際に利用されるようになった。オンライン検索担当者にとって、二つのシステムを操作することは、検索の初期には複雑なことだったと思われる。しかし、JOIS-II、DIALOGの利用という実際的な問題を目の前にして、研究会が意欲的に取り組んだ一年であった。

研究会では、JOIS-II開始後、使用経験をもとに各コマンドの使用法、FT、¥SAVE等、何度も問題点を討議した。

DIALOGについても、使用館が出るとともに、研究発表がされるようになった。発表として次のものがある。

「JOIS-IIとDIALOGの比較について」(東日本大橋本) JOIS-II (MEDLINE)とDIALOG (EM, BA, CA, NTIS)との比較、フルテキスト演算、料金計算等の説明。

「DIALOGとJOIS-IIとのコマンド比較」(北大工富本)

第12回例会(8月)には、日本医科大学図書館の殿崎正明氏を迎えて、日本医大のオンライン検索の状況を話していただき、検索に関する質疑応答が行われた。我々の知らなかった方法もあり、有益であった。

第13回例会(9月)は、「北海道地区医学図書館協議会JOIS研究集会」として、JICSTの福島勲氏を迎えて行われた。テーマは、「JOIS-IIを運用しての問題点と効果的利用について—JOIS研究会の事例を中心に—」であり、それまでの使用経験をもとに質疑応答が行われた。また、福島氏から国内医学文献ファイル、その他サービス予定のファイルについて説明があった。

その他、発表として、

「C4 カテゴリーの索引原則(新生物)」

「C4 カテゴリーの索引原則(新生物)—1981年改訂版」(旭川医大 小川) NLM Indexing Manualからの和訳、資料作成の上、説明があった。

報告としては、

「医学用語の学び方」(北大医 高瀬) 昭和55年11月、IMIC公開講座「メディカルドキュメンテーション」

「DIALOG研修IIからのメモ」(札幌医大 野口) 10

月、東京でのDIALOGシステム研修IIの報告がされた。

3. 昭和57年(第17回～第26回)

DIALOGはすでに前年より使用されていたのであるが、知識として理解していても、実際に使ってみなければ理解できないのが、オンライン検索ではないかと思われる。使用経験、研修会、問題点の討議という流れの中で、しだいにオンライン検索が身につけていったようである。

2月に、「北海道地区日本医学図書館協議会情報検索研究集会」として、札幌丸善の竹内茂氏より、「DIALOGのメドライン検索手法について(東京丸善MA-SISセンター専門研修報告)」との説明があり、質疑応答、検索実習が行われた。

これ以降、DIALOGの検索コマンド、MEDLINEの検索方法について、例会で討議されている。特に、JOIS-IIとの比較という点から、FTとフルテキスト演算、AND検索とWオペレーション、SORTなどである。

このような状況の中で、資料作成とともに発表されたものに次のものがある。

「JOIS-IIのファイル構成について—とくにBIOSISファイルについて—」(旭川医大 山口)

「Biosis Previewsの効果的検索のために」(東日本大橋本) 32ページにわたる資料は、I. 冊子体BA及びBA/RRMの構成、II. Biosis Search Guideについて、III. Biosis Previews原テープの構成、IV. JOIS-BIOSISの構成、V. DIALOG-BIOSISの構成、VI. JOIS-BIOSISとDIALOG-BIOSISの比較、から成っている。

「BRS社によるオンラインシステムについて」(北大工 富本)

「TESTDRUG」(旭川医大 小川)

「JOIS-MEDLINEにおけるFT(一次検索)項目の改訂に伴う留意点について」(旭川医大 山口)

報告としては、BAファイルに関して「丸善システム研修II. 3月、東京」(酪農大 下田)、「紀伊國屋DIALOGセミナー、6月、札幌」(東日本大 橋本)がある。

この年、研究会に、「昭和57年度北海道地区大学図

書館員研究集会」への発表の依頼があり、8月5日、「道内大学図書館におけるOn-Line情報検索の現状」北海道情報検索研究会(仮称) 山口直比古(旭川医大), としてアンケート調査報告資料を配布の上、発表が行われた。これは、後に山口氏により論文として発表されている。¹⁾

10月には、第1回セミナーを開催しており、これと時を同じくして、日本科学技術情報センター北海道支所主催、北海道情報検索研究会後援という形で、筑波大学図書館部学術情報課長、石川亮氏による「オンライン情報検索とライブラリアンの過去—現在—未来」と題する講演会が行われた。

4. 昭和58年(第27回~第34回)

北海道内におけるオンライン検索も、4年目を迎え、当研究会においても、JOIS-II, DIALOGの基本的な検索方法にも慣れてきた。そこで、MEDLINEの検索において必須の条件である医学用語—MeSH用語の学習のために、医学研究者の方に話しをしていただくことにした。これが、研究会で“レクチャーシリーズ”として行った講演会である。今年は、JICST北海道支所、岩田賢治氏のご好意により、JICST理事 菊池敏典氏に講演をお願いすることができた。“レクチャーシリーズ”は、例会に組み入れて、3回行われた。

第1回(第29回例会 4月)

「神経系の医学用語について」

北海道大学医学部教授 井上芳郎氏

MeSH A-8 カテゴリー(神経系)の解説。

第2回(第31回例会 6月)

「科学技術情報の現状と未来」

JICST 理事 菊池敏典氏

JICSTのJOISをはじめ、内外情報政策、将来の動向について。

第3回(第34回例会 9月)

「虚血性心疾患の生理と薬理」

旭川医大講師 市原和夫氏

虚血性心疾患、狭心症の治療剤とその実験について。

第32回例会(7月)では、旭川医大、札幌医大、北大医学部、北大工学部、酪農大の5館から、昭和57年度のオンライン検索統計が出された。

発表としては次のものがある。

「MeSH'83の改正点について」(旭川医大 山口)

「MeSH タームの切り出しについての疑問点の整理」(旭川医大 山口)

「IMとNIMについて」(旭川医大 山口)

「ネットワークによる文献情報データベースの検索」

(北大工 富本) N-1ネットワークによる各大学所有のデータベースの利用について。

報告としては、「IMIC公開講座昭和57年12月、東京」から、Excerpta Medica(札幌医大 永岡)と「医学文献検索法」(北大医 高瀬)、「BRS全文データベース」(旭川医大 山口)、「VENUS-Pについて」(札幌医大 永岡)、「医学図書館員セミナー」(北大医 玉井)、「文部省一ヶ月研修に参加して」(旭川医大 山口)などである。

研究会の例会について、この3年間を振り返ってみた。オンライン検索を中心に、会員相互の発表、情報交換が行われ、この場では、紹介できなかったことも多いと思われる。日常業務に根ざした研究会の例会であったと考えている。

IV. セミナーについて

セミナーは、毎月の例会とは別に、会員の研究発表の場として開かれている。開催にあたって、予稿集を作成した。次に、セミナーの発表演題を紹介する。

第1回セミナー(昭和57年10月24日 北大医学部)

1. JMEDにおけるタイムラグについて

福井堅一 (札幌医大)

2. MEDLINEにおけるMeSH-KeywordとFree-Term使用検索の比較検討

高瀬由紀子 (北大医)

3. 工学全般におけるファイル構成と化学系情報検索について

富本寿子 (北大工)

4. MEDLINE オンライン検索におけるJOIS-II, DIALOGシステムの選択について

永岡 茂 (札幌医大)

5. On-Line情報検索と図書館活動

斎藤温子 (北大医)

6. BIOSIS Preview における, JOIS-II, DIA-LOG の検索の相違及び, 同一条件下での出力結果の相違と疑問点
橋本厚子 (東日本大)
7. 血液・リンパ系 MeSH の学習
玉井淑子 (北大医)
8. オンライン検索の抄録誌へ与える影響について
山口直比古 (旭医大)²⁾
9. オンライン検索とユーザー
小川 聡 (旭医大)
10. JOIS-MEDLINE に使われる用語の理解
野口迪子 (札医大)
11. CAB と BIOSIS を比較して
下田尊久 (酪農大)
12. CAB データベースを使用して
成沢桃代 (帯蓄大) (予稿のみ)

第2回セミナー(昭和58年10月23日 北大医学部)

1. 外国雑誌利用統計分析と購入希望雑誌について
玉井淑子 (北大医)
2. 雑誌に掲載された症候群に関する論文の目録について
福井堅一 (札医大)
3. ネットワークによる化学文献情報データベースの検索について
富本寿子 (北大工)
4. 閲覧業務電算化における効果と問題点 小樽商大の場合
長江雅子 (小樽商大)
5. 文献検索の過程とモデル
永岡 茂 (札医大)
6. 「ターミナル・ケア」邦文文献の探索
斎藤温子 (北大医)
7. 二次情報検索におけるブラウジング機能評価の試み
山口直比古 (旭医大)
8. 北大医学部図書館における ON-LINE 情報検

索3年間の報告

高瀬由紀子 (北大医)

第1回, 第2回で発表され演題は以上のものである。例会の内容と関連して, または全く別の観点からのテーマを取り上げている。普断の例会を離れて, 会員個々のテーマで, 発表を行ったと思う。

V. お わ り に

北海道情報検索研究会の過去3年間の活動を紹介してきた。例会を毎月開いて, その場でオンライン検索の日常業務から発した問題点や疑問点を討議, 発表するということから始まった研究会であるが, オンライン検索の発展とともに多くのテーマが扱われてきた。これからの課題として, テーマごとにある形に残すことが必要ではないかと考える。

オンライン検索に関しても, 一応ひとつの段階にたどり着いたとも言えるが, まだ多くの有用なデータベースがあると思われるし, システムとファイルの両面から研究すべきことが多いであろう。

現在7館20名程の研究会ではあるが, ここまで続けられたのは, 会員の熱意とともに, 毎回の例会の後に寄り道をしては, 遅くまで話し込んで, 懇親を重ねたことも大切なことだったと思う。

これまで, 研究会の活動にいろいろな形で協力していただいた方々に, この場をお借りして, 感謝を申し上げて, 当研究会の紹介を終わりとしたい。

注

- 1) 山口直比古：北海道内大学図書館におけるオンライン情報検索サービスの現状について—アンケート調査, 大学図書館研究, 12:140-147, 1983.
- 2) この発表は, 次の論文として発表された。
山口直比古：オンライン情報検索と抄録・索引誌—図書館の立場から—, 情報管理, 26(1):22-28, 1983.

写真1. 第1回セミナー

写真2. 第2回セミナー

写真3. セミナー発表風景

写真4. 懇親会

お知らせ

編集委員会

29巻1号から“Q & A”のコーナーを新設しました。

日頃、疑問に思っていること、“この項目について深く知りたいのですがどんな資料がありますか”といった様なこと、あるいは“利用者から受けた質問で返答をしましたでしたがさらに詳しい事が知りたいのですが”等等…の質疑応答を誌上で展開し、読者との交流の場としたいと思います。

質問をどしどしお寄せ下さい！

質問文の長さに制限はありませんができるだけ簡明をお願いします。
誌上匿名も自由ですが、原稿には、氏名・所属を明記して下さい。

なお、解答者は、編集委員会に御一任下さい。可能なかぎりお答え致します。